

山手留守家庭児童育成室運営業務委託事業者評価シート（令和5年度）

1 育成室の概要

（1）児童数・教室数（令和6年3月1日時点）

児童数158人（うち配慮を要する児童4人）						教室数
内訳	1年	2年	3年	4年	5・6年	4教室
	53人	50人	28人	27人	0人	

（2）受託事業者

株式会社セリオ（契約期間：令和3年4月～令和8年3月）

他に受託している育成室（佐井寺育成室、東佐井寺育成室）

2 運営状況に対する評価

	評価項目・視点	評価点 (0～3)
1	児童との関わりについて ・指導員と児童との関係づくり、信頼関係構築など	3
2	保育内容について ・集団遊び等による自主性や社会性を培う取組など	3
3	運営体制について ・指導員の配置、知識・経験など	2
4	育成室環境について ・生活空間の確保、衛生環境など	2
5	おやつ提供について ・栄養バランスの配慮やアレルギー対応など	2
6	学習活動について ・宿題等の取組のためのスペース確保など	2
7	保護者・学校との連携について ・保護者や教職員との情報交換など	2
8	配慮を要する児童（障がいや有する児童）の保育について ・児童の発達段階に応じた適切な人員配置など	2

3 総合評価（所見）

- ①全体として、仕様書の内容を適正に履行し、事業目的を踏まえた保育や運営が良好に行われており、児童の健全育成に貢献している。
- ②保護者アンケートの「育成室を安心して利用することができている。」の設問で、「そう思う・少しそう思う」の回答が合わせて約96%であり非常に高い割合である。
- ③保護者アンケートの「(1) 指導員は、児童をよく理解している。」「(2) 指導員は、児童のことについて、保護者の相談に応じている。」の設問で、肯定的な回答がそれぞれ(1) 約14ポイント、(2) 約22ポイント減少しているが、否定的な回答が増加しているわけではなく、「わからない」という回答が増加している。人事異動等により一部担任指導員の交代が影響と考えられるが、実施状況報告書の研修受講状況から、市主催研修への積極的な参加や法人独自の研修に多く取り組むなど職員の資質向上に尽力している様子が伺える。